

王将タラシ

日本体育大理事長 松浪健四郎



題字は直筆

山梨の逸材、ジャンボ鶴田と私の交流はあまり知られていない。中大時代にバスケットボールからレスリングに転向した頃から練習やトレーニングをよくみた。日川高出身、頭腦的な試合運びに感

ジャンボ鶴田の修士論文

重なる研究になる。プロレス

心。重量級は、アンコ型が多く鶴田や長州は細身、スピードがあり、スリリングなレスリングをする両雄であった。

私の家の近くに鶴田が住んでいた。筑波大学院に入学した関係でか、頻繁にわが家を訪れる。研究についてのアドバイ

スを私に求め、基礎的な書籍を貸す。どんな指導を受けたのか知らぬが、私の指導に耳を傾けながら、最終的には平凡な修士論文、残念だった。エジプトの首都カイロ

からナイル川に沿って車で走る。5時間でベニハッサンの遺跡に着く。紀元前21世紀ごろの地方豪族の岩窟墳墓群だ。そのうちの2つの墳墓の4面の壁は、全部レスリングの絵だ。古代エジプト人は、祭典儀礼の重要な競技としてレスリングを染

しむ。古代ギリシャよりも古いのだ。壁画をカメラに収める。目からウロコ、プロレスそのものではないか。ブレインバスターあり、反り投げあり。この壁画を見ずしてプロレスを語ることはなけれ

歴史的な研究よりも、近代トレーニング法のテ

「米国に行くことになりました」とあいさつに來てくれた晩年の鶴田の顔色は薄茶色。肝臓が悪いと一目瞭然。それから悲報をニュースで耳にする。マニラからの外電であった。以来、私は臓器移植の運動に協力している。合掌。

◆松浪健四郎(まつなみけんしろう)1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東ミシガン大に編入し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブール大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。



89年4月、3冠統一を果たしベルトを肩にかけけるジャンボ鶴田

審判

日本体育大理事長 松浪健四郎



題字は直筆

それぞれのスポーツには特徴がある。が、相撲の特徴、特殊性は他のスポーツとは異なる。私は外国人に相撲について説明する際、5つの特色を語ることにしている。

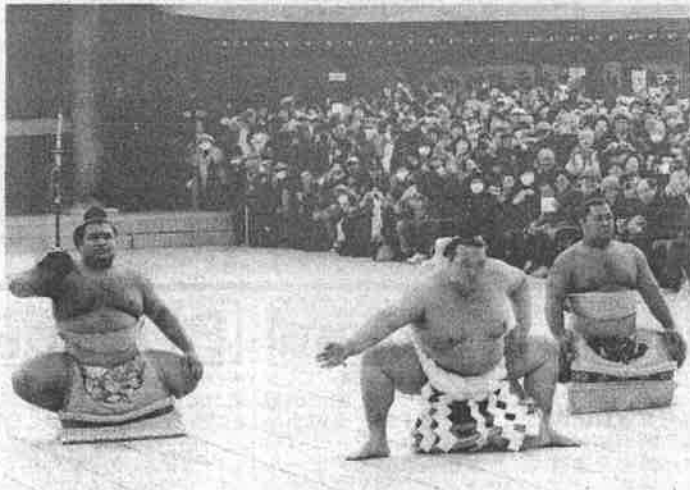
まず、相撲は神事であること。ゆえに作法が厳格で、伝統を重んじる。2つ目は、円い土俵の輪の中で争い、先に外へ出れば負けとなること。レスリングや柔道では、試合場の外に出ても、中央に戻って再開される。

どんなに苦しいことがあると、齒を食いしはって我慢する。この輪から出されれば負け、踏みとどまらねばならない。社会集団の中において、その集団からはみ出さない、出て行けば困ることがある。集団の和を重視するという教え。もっとも土俵のルールができたのは江戸時代中期、まだ300年の歴史だ。

3つ目は、仕切り線があつて、両力士は両手をついて、何の合図もないのに、いきなり試合を始

めるルール。鐘や笛が鳴るわけでもなし、「はじめ」の合図がない。審判たる行司は、ただ勝負を見きわめるだけ。オレは立ってもいいが、相手もいいたろつか。両力士が互いにそう理解して立つ。いわゆる「仕切り」、これは阿吽(あする、祭りの多くはフン

相撲に5つの特殊性 日本人の尻を見る



17年1月、雲竜型の華納土俵入りをする第72代横綱稀勢の里(中央)。太刀持ち高安(左)、露払い松鳳山

ろん)の呼吸と言われ、日本民族の独特のもの。自分さえ良ければよしとしない日本人、常に相手の立場をもわきまえる日本人、わが民族の心を表現している。

4つ目は、マワシ姿でお尻を人前にさらすこと。キリスト教では、お尻は悪魔の顔とされ、他人には見せない習慣。日本人男性の活力はお尻に宿っており、神々に奉納する。祭りの多くはフン

ドン姿、お尻を見せてこそ男だ。最後は、あまたあるスポーツの中で、最も速く勝負のつく競技という特徴。平均で約10秒で勝敗が決する速さ。だが、そのためにも毎日、熱心に稽古しなければならぬ。

相撲は、日本の身体文化の代表であり、古典である。横綱の千代の富士が米のホワイトハウスで土俵入りをする際、米政府は初めて水着着用なしを認めた。日本人の尻を見よ。

◆松浪健四郎(まつなみ・けんしろう) 1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東ミシガン大に編入学し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブール大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。



日本体育大理事長 松浪健四郎

題字は直筆

43年間、愛する娘を北朝鮮から取り返す運動を夫婦で展開してきた父親の横田滋さんが逝去された。戦後最大の悲劇物語。主権国家日本の女子中学生が、北朝鮮に拉致された。

忘れもしない2012年10月、文部科学省から私に電話。「参考人として国会に出席していただきたい。北朝鮮と日体大のスポーツ交流についてです」。「喜んで出席します」。3日後、「出席はけっこうです。質問がなくなりました」。国会に呼ぶと言えば、ビビって初めての交流を中止すると読んだのであろうか。

なめられては困る。政府が強烈的な経済制裁を加え、渡航自粛策を徹底している時に、突然、おきこまりが出現。「スポーツを基軸に国際平和に貢献する」とうたう日体大の使命、建学の精神だ。国際平和を考え行動する者にとって、国会質問を恐れていたのでは絵にな

らない。逆に日体大の宣伝にもなると踏んだ。拉致担当大臣がいるけれど、だれも北朝鮮と交渉した大臣がいない。政府は裏で必死に策を講じているが、ラチがあかない。ならば、民間のスポーツ交流こそが両国の友好に役立つのではない

横田滋さんは待ってる 北朝鮮の扉開ける人

か。膠着(こうちやく)した関係を少しでもほぐすことができるのではないか。何も求めない学生のスポーツ交流、この純粋さに政府も目をつぶってくれた印象を受けた。日本モンゴル議員連盟(林幹雄会長)とウランバートルを訪問。大統領の迎賓館で歓迎会。「この部屋で横田ご夫妻が、お孫さんのウングンさんと過ごしました」との説明あり。日本の国会議

員たちは、そろって目を赤くする。

どうすれば北朝鮮の固いトビラが開くのだろうか。今までの日本政府の政策では前へ進まない。スポーツ交流しかないのではないか。金目成競技場が、5万の大観衆をのみ込み、日体大生を応援してくれる。拉致された日本人たちもTVを見てくれているだろうか。

横田滋さんのご冥福を祈るだけなら、だれだってできる。勇気と知略で新しい展開を考える日本人はいないのか。そんな人の出現を横田ご夫妻とめぐみさんが待っているのだ。



6月6日、夫の故滋さんの話をする横田早紀江さん

◆松浪健四郎(まつなみけんしろう)1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東ミシガン大に編入し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブール大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。

日刊スポーツ新聞社 2020年6月17日
 東京都中央区築地3の5の10 (令和2年) 7版 水曜日(大安)
 〒104-8055 電話(03)5550-8888
 ©日刊スポーツ新聞社 2020
 (日刊)第26593号 昭和21年4月15日 第3種郵便物認可

正面タラシ

日本体育大理事長 松浪健四郎



題字は直筆

メディアは、毎日コロナウイルス感染者数を報じる。同時に死亡者数も教えてくれる。欧米のコロナウイルスによる犠牲者数は多いが、それらに比して日本の死亡者が少ない。その原因はどこにあるのか判然としないが、我々高齢者は特に感染しないように注意せねばならぬ。

ましてや基礎疾患を持つ身にあつては、故志村けんさんのごとく大変なことになる。で、きちんと「ステイホーム」を励行。こんなまじめに人の発言を守ったのは初めてだ。それだけコロナウイルスにびびっている。私は医学に弱い。このウイルスは肺炎と同様の症状を呈するようだ。肺炎は日本人の死亡原因のランキング3位で、毎年約9万5000人が亡くなっている。しかも誤嚥(ごえん)性肺炎の死

者を入れると13万3000人にのぼり、コロナウイルスの比ではない。がん、心臓病に次いで肺炎は怖い病気なのだ。誤嚥性肺炎とは、ちょっと難しいが、食べ物や唾液などが誤って気道内に入ってしまったって肺炎を起す病気。高齢者に多く、我々も時に食べ物を気道に入れてせき込む。老

こんなに真面目に人の発言を守ったのは初めて

中小企業のみなさま
 ○資金繰り相談
 03-5550-4877
 ○経営相談
 03-5550-4877



4月、定例記者会見で外出自粛を改めて要望する小池都知事

◆松浪健四郎(まつなみ・けんしろう)1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日本大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東ミシガン大に編入学し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から人は、モチを食べてノドにつまらせて亡くなったりするが、食物には要注意だ。肺炎での死者は、1番東京、2番大阪、3番北海道の順である。誤嚥性肺炎は、東京、大阪、神奈川、愛知と続く。なんとなくコロナ禍の感染者数の順番を想起させられるが、人口10万人あたりになると順位が変わる。高知、山口、鹿児島、秋田、和歌山の順が肺炎で、誤嚥性肺炎は香川が断トツ、2位が熊本、3位が鳥根、岐阜、徳島と続くが、平均寿命の順位の低い県に比較的多いと分かる。といっても、たいした差ではないのだが。

コロナ禍の患者を出さなかつた岩手県、肺炎の死者数は少ないのに不思議なことに県民は感染しなかつた。ヒマな時、資料を見て調べるのもいい。やっと図書館に行けるのだから。(参考文献『データでみる県勢』2020年版、矢野恒太記念会発行)



ラグビーW杯日本大会1次リーグ 日本対スコットランド 後半、独走トライを決めるWTB福岡堅樹

正音タラシ

日本体育大理事長 松浪健四郎
 題字は直筆

私の母親は、ロープ製
 造会社の清掃作業員だっ
 た。職業に貴賤(きせん)
 がないから、どんな仕事
 をするにしても本人の自
 由。が、本人のもつ才能
 を捨てるのはモツタイナ
 イ。ラグビーの福岡堅樹
 選手が、医師への道に進
 むという。「東京五輪断
 念」モツタイナイ。

福岡選手のラグビーの
 才能は、日本を代表する
 もの。19年W杯の活躍、

国民に大きな勇気と希望
 を与えてくれた。その栄
 光よりも医師へというの
 だから、平凡な私は理解
 に苦しむ。

家が医系だから、ケ
 ガをして外科医に魅力を
 感じたから、理由がいろ
 いろあるのだから、モ
 ツタイナイ。毎年医者は

約9000人誕生する。
 エリートたちであるのは
 間違いないが、福岡
 選手はラグビーとして日本
 を代表する逸材、超エリ
 ートだ。

女子柔道の朝比奈紗羅
 選手は、独協医大へ進学
 した。欧米では、一流ア
 スリートが医師、弁護士
 を職業とする者は少なく
 ないが、日本では珍しい。
 私が福岡選手なら、セカ
 ンドキャリアのために大
 学院へ進んで学位を取

る。覚悟が求められる挑
 戦だが、頑張ってほしい。
 アスリートが、夢を追う
 のもいいだろう。

村田蔵六(大村益次郎)
 は、解剖を得意とする医
 学者であった。が、軍学
 者となって国を動かした。
 最近、アフガニスタ
 ンで銃弾に倒れた中村哲
 医師は、自ら重機を動か
 して運河建設に走った。
 医師から異なる分野で活
 躍した歴史上の人物も多
 い。人々を救うのは、医
 師だけではないことを福
 岡選手に伝えておきたい。
 ラグビーは、誇れる
 スポーツ文化なのだ。

ラグビー福岡医師の道 五輪断念モツタイナイ

得、教育者、研究者への
 道に舵(かじ)を切る。
 元ロッチェの小林至投手
 は、現在は桜美林大学教
 授で文科省やスポーツ庁
 の委員も務める。野球選
 手の経験が仕事に生きて
 いる。

それにしても、9000
 0分の1に挑戦しようとする
 福岡選手にエールを送
 りたい。医師といえは、
 京大の山中伸弥教授も神
 戸大のラガーだった。i
 PS細胞という万能細胞
 を発見、ノーベル賞に輝
 いた。27歳の福岡選手、
 医師になったとしても活
 躍できるのは35歳をすぎ

◆松浪健四郎(まつな
 み・けんしろう)194
 6年(昭21)10月14日、
 大阪府泉佐野市生まれ。
 日体大時代にレスリング
 で学生王者に。68年、米
 東ミシガン大に編入学
 し、69年に全米レスリン
 グ選手権優勝。79年から
 専大講師となり、88年に
 教授就任。96年の衆院選
 大阪19区に新進党から出
 馬して初当選。外務政務
 官、文部科学副大臣など
 を歴任。アフガニスタン
 の国立カブール大講師な
 ども務め、中東外交に強
 いパイプを持つ。201
 1年から日体大理事長。

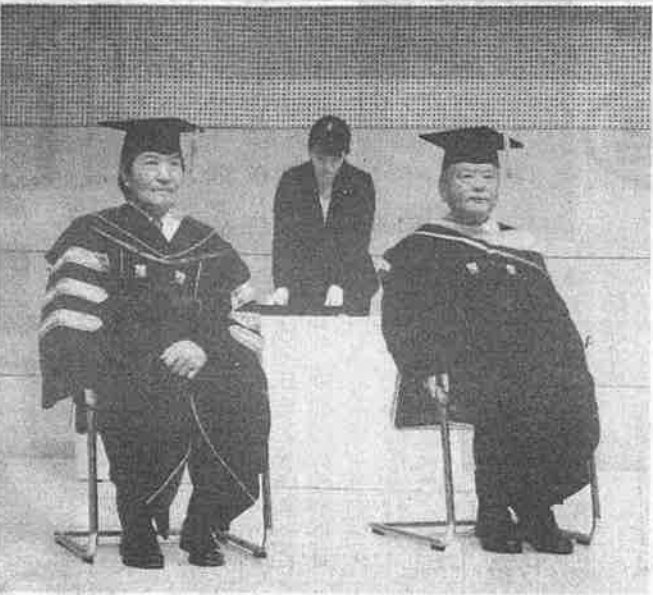


人の不幸は「蜜の味」。3度のがんを体験し、入院退院を繰り返している。と、心配してくれる人と、ひそかに喜ぶ人との二分される。すぐ、ウワサが電光石火のごとく広まり、「理事長の体調は悪く、危ないらしい」。メキシコ五輪前、レスリングの代表候補選手たちは、旧国立競技場のスタンド下にあるスポーツ

マンホテルで長期の合宿。2段ベッドで、各階級2人の候補選手が上下で寝る。これは残酷物語、相当な心臓の強さが求められた。相手が戻ってこない、内心、交通事故でも…と不幸を期待する。人間なんて、人の心

人の不幸は「蜜の味」 心鍛え、断蜜したい

19年12月19日、川淵三郎氏(右)の日本大名将軍(称号)の授与式に列席した同大理事長の筆者



なんて想像以上に汚いことを体験した。抗がん剤の影響で、自慢のチョンマゲは落下、あたかもスキンヘッド、医療用カッターを着用。それだけでもウワサは流布し、卒業生たちや教職員たちはヒソヒソ。みんな人間なのである。「蜜の味」でもするのだろうか。

脾臓(すいぞう)がんは、がんの中でも横綱。沈黙の臓器ゆえ発見が難しい。腰、背中が痛いので病院へ走る。CT検査で見えなくても、たいていはステージ3か4、手術は難しい。脾臓がんを発見しても手術できる患者は10人に1人だという。私の場合、ステージ1だった。「手術しましよ」と、医師の声。

前立腺がん、悪性リンパ腫に続いて脾臓がん。公表したので、あちこちに「蜜の味」をまき散らした。しかし、元氣。抗がん剤は、ときにきついが、根性だ。医師いわく、「驚異的な回復力です。さすがにスポーツで鍛えた体ですね」。若い時、

レスリングで修行しておいてよかったと再認識する。

しかし、どんな苦しい厳しいスポーツ修行を重ねようとも、「心」を鍛えることはできない。「蜜の味」を染しむ汚い「心」をいかにすれば捨てることのできるのか。悟りを開く方法はあるのだろうか。3度のがんと闘い、幾度も「死」を意識した私だが、いまだに「純真の心」を持つに至っていない。「心」に筋肉をつけ、「蜜の味」を吹き飛ばしたいものだ。

◆松浪健四郎(まつなみ・けんしろう) 1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東ミシガン大に編入し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブール大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。

日刊スポーツ

7月1日

土俵入り

日本体育大理事長 松浪健四郎



題字は直筆

土俵が3つの日体大相撲場。相撲の授業があるため、珍しい道場。まもなく創立130年の日体大、高齢のOBも多く同窓力士をテレビ機軸から応援する。楽しみは土俵入り。「體大」の校章の化粧まわし。紺地に太い金刺繍(ししゅう)のデザイン、愛校心が沸騰するらしい。

紺地に金「體大」まわし 愛校心たぎる土俵入り

OB力士には、十両昇進時に化粧まわしを贈る。日大、近大、東農大、東洋大、中大などの出身力士たちも校章入りの化粧まわし。最近では、増

昇格すれば変えます」と発言、その場をしのいだ。ところが、次の場所では、妙義龍が大活躍、小結に昇進。やむなく「體大」入りのまわしを贈ることに。ホテルニューオータニで盛大に贈呈式を行って祝う。妙義龍だけに2本も大学が化粧まわしを贈ったことになる。

千代大龍が三役入りして大学に来た。「新しい化粧まわしをもらえませんか」という。妙義龍の話が角界で拡散したらしい。やむなく、のほりを贈った。嘉風が胸脇に昇進した際は、ふとんを贈った。肥後ノ城や千代の海のように十両と幕下を往復されるとドキドキハラハラ。



17年5月、夏場所初日、土俵入りする妙義龍

虫メガネで勝敗をスポーツ紙で見る。

友風のごとく早く出世しながら大ケガで休場の連続では心も痛む。本場所中止で、ちよっとだけ友風のためには良かった。北勝富士も小結から転落、がんばって欲しい。元横綱の朝青龍の甥(おおい)が、日体大柏高から立浪部屋に入った。強くなつて1年と少しで十両入り。化粧まわしを贈ったが、デザインは妙義龍のあのライオン。日体大相撲部には逸材がそろっている。稽古をよく見るが、楽しみである。

◆松浪健四郎(まつな けんしろう) 1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東シシガン大に編入し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブル大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。

日刊スポーツ

7月2日

正面タックル

日本体育大理事長 松浪健四郎



題字は直筆

私の米国留学先の東ミシガン大教育学部体育学科には、週に4コマ付属支援学校で実技の指導の実習があった。私の担当は、サリドマイドによる**体育やスポーツは、すべての児童に必要な**

る障がい児たちにマツト運動と水泳指導。目からウロコの連続だった。健常者からすれば簡単な前転や後転は、重度の障がい児にとっては困難

の体験は、私にとって貴重なものとなり、脳裏に深く焼きついた。バルセロナ五輪の後、パラリンピックの開会式を見た。五輪と同じ感動と興奮が伝わってきた。キリスト教国だから、障がい者に対して親切で強く支援するのだと思っていたが、誤解だった。障がい者スポーツが普及して、多くのファンを魅了していたのだ。障がい者になりたくて障がいを持った人はいない。どんな障がいを持つとも、夢を追って努力する人たち。日本の全国の支援学校へ体育とスポーツを得意とする先生を送り込み、障がい者スポーツの普及と発展に寄与し、希望と夢に燃える障がい児を増やしたい。私は留学中に体験した指導を忘れたかった。

日本体育大理事長に就任して、自民党の幹事長だった武部勤先生から、「網走市の高校を見てくれなにか」との話。私は、日本初の私立大がもつ高等支援学校をつくらうと決意した。日体大生が、支援学校教員免許を取得す

るための実習校にすればいい。案するより産むがやすし。北海道庁、網走市、そして日本財団が協力してくださった。名古屋にあるメイドロー(株)も応援してくださり、今春、第1回の卒業生を送り出した。知的障がい者をオホーツクの中で、自然の中で、体育・スポーツ、芸術、農作業の3本柱で教育をする学校。日体大の犠牲的精神の発揮と体育学的パイオニアとしての矜持(きょうじ)である。



16年10月、記念撮影に納まる、左から日本財団の笹川陽平会長、辻沙絵、日体大・松浪健四郎理事長

◆松浪健四郎(まつなみ・けんしろう) 1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東ミシガン大に編入し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブール大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。



題字は直筆

日刊スポーツ
NIKKAN SPORTS

東京都中央区築地3-5-10 〒104-8055

☎ 03 (5550) 8888 (代表)